

2025 年 5 月 26 日
日清食品株式会社
株式会社 T2

日清食品と T2、自動運転トラックを用いた幹線輸送の実証実験を開始 ～ 12 型パレットによる軽量貨物輸送の効率化を初検証 ～

日清食品株式会社（代表取締役社長：安藤 徳隆）と株式会社 T2（代表取締役 CEO：森本 成城）は、T2 の自動運転トラックを用いた幹線輸送^{*1}の実証実験を、関東と関西を結ぶ高速道路の一部区間で 2025 年 6 月から開始します。

ドライバー不足の解消へ！レベル 4^{*2} 自動運転による製品輸送の実現に向けた第一歩



■目的と背景

トラックによる物流では、貨物の最大積載量は「重量制限」で決まることが多く、積載可能重量近くまで積み込んでも荷台の容積には余裕がありますが、日清食品の即席麺のような軽量貨物は「容積制限」で最大積載量が決まります。そのため、軽量貨物を効率的に輸送するためには、トラックの荷台の容積を最大限に活用できるかがポイントになります。

日清食品と T2 は、レベル 4 自動運転トラックによる幹線輸送サービスを 2027 年に開始することを目指しています。そこで今回、軽量貨物輸送で一般的に使用されている 12 型パレットを用いてトラックの容積を最大限に活用する輸送モデルが、自動運転という新たな技術環境下でも機能するかを検証するため、まずはレベル 2^{*3} 自動運転トラックでの実証実験を行います。

*1 工場で生産された製品を全国の配送拠点に主要な輸送ネットワークを通じて効率的に運ぶこと。

*2 特定の走行環境条件を満たす限定された領域において、自動運行装置が運転操作の全部を代替する状態。

*3 ドライバーの監視の下に行われる、特定条件下での高機能自動運転。

■実証実験の概要

時 期：2025 年 6 月 5 日(木)、6 月 6 日(金)

場 所：関東と関西を結ぶ高速道路の一部区間

[1 日目 往路]

日清食品 関東工場（茨城県取手市）→ 関西エリアの自社倉庫（大阪府摂津市）

[2 日目 復路]

日清食品 関西工場（滋賀県栗東市）→ 関東エリアの委託倉庫（神奈川県横浜市）

役 割：[日清食品] 拠点・運行ルートを選定、実証貨物の手配

[T2] 全体マネジメント、実験用車両の手配

積 載 物：即席麺

検証内容：① 貨物を積載した幹線輸送における自動運転の走行ルートと走行所要時間

② 渋滞や気象など事前に想定した条件における走行オペレーションの有効性

③ 積載した即席麺への影響

※実証実験ではドライバーが常に乗車し、レベル 2 相当の自動運転で実施。



■12 型パレットについて

パレットとは、製品の輸送や保管の際などに用いられる平らな台のことです。12 型パレット（1,200mm×1,000mm）は、日本をはじめヨーロッパやアジアでも標準規格となっています。日清食品の「カップヌードル ビッグ」の場合、11 型パレット（1,100mm×1,100mm）を使用する場合と比べて、約 117%のケース数を積載することができます。